

平成 16 年度食品安全モニター会議について（報告）

1 開催趣旨

平成 16 年度食品安全モニター会議については、モニターの方々に、食品安全委員会の取組や食品健康影響評価の実際などについて、知識や理解を深めていただくとともに意見交換を行うことを目的に開催した。

2 開催状況

平成 16 年 6 月から 7 月にかけて、全国 8 都市において計 10 回開催し、合計 382 名の食品安全モニターが参加した。

3 会議概要

会議は、大きく 2 部構成で行い、第一部では、最初に食品安全委員会委員より、「リスク分析の枠組みと食品安全委員会の取組について」、続いて事務局より、「食品安全モニターの活動について」説明を行った。また第二部では、個別分野を取り上げ、専門調査会委員より、「リスク評価の考え方と実際について」説明を行った。これらをもとに、食品安全委員会委員、専門調査会委員等とモニターとの間で活発な意見交換を行った。モニターからの主な意見等は、別紙 1 のとおりである。

また、会議には、厚生労働省、農林水産省も出席し、リスク管理施策等幅広い観点からの意見交換に参加したところである。

なお、今後の会議等の運営に当たっての参考とするために会議終了後にアンケート調査を行った。その結果は、別紙 2 のとおりである。

開催日 開催場所	モニター出席者		リスク評価の個別テーマ (第二部)(出席専門委員)	出席委員
	対象地域	人数		
6 月 11 日(金) 東京都	東京都、山梨県、 長野県	44 人	かび毒・自然毒等 (佐竹元吉専門委員)	寺田雅昭委員長、 寺尾允男委員、ほか
6 月 18 日(金) 東京都	茨城県、栃木県、 群馬県、埼玉県	38 人	動物用医薬品 (三森国敏専門委員)	寺田雅昭委員長、 小泉直子委員、ほか
6 月 25 日(金) 東京都	新潟県、千葉県、 神奈川県	42 人	添加物 (林真専門委員)	寺田雅昭委員長、 見上彪委員、ほか
7 月 9 日(金) 福岡市	九州 8 県	55 人	農薬 (鈴木勝士専門委員)	小泉直子委員
7 月 13 日(火) 仙台市	東北 6 県	33 人	汚染物質 (佐藤洋専門委員)	中村靖彦委員
7 月 14 日(水) 札幌市	北海道	15 人	添加物 (林真専門委員)	見上彪委員
7 月 20 日(火) 大阪市	大阪府、兵庫県、 和歌山県	39 人	遺伝子組換え食品等 (日野明寛専門委員)	坂本元子委員
7 月 21 日(水) 岡山市	中国 5 県 四国 4 県	44 人	肥料・飼料等 (唐木英明専門委員)	本間清一委員
7 月 27 日(火) 京都市	北陸 3 県、滋賀県、 京都府、奈良県	32 人	農薬 (鈴木勝士専門委員)	寺田雅昭委員長
7 月 28 日(水) 名古屋市	岐阜県、静岡県、 愛知県、三重県	40 人	新開発食品 (上野川修一専門委員)	寺尾允男委員

< 食品安全モニターからの主な意見等 >

意見交換の際に、モニターから指摘のあった主な意見等を整理すると、以下のとおり。

1) 食品安全一般に関する意見等（第二部個別テーマ関連以外のもの）

< リスクコミュニケーション等関係 >

- ・リスクコミュニケーションにおいては、情報の受け手の感情等を把握して、メッセージを発することが効率的ではないか。認知心理学のアプローチ等が重要。(東京3)
- ・すべて科学的、中立公正と言われても、安心できるかというところと少し違うところがある。消費者の感情を取り入れることが必要。(福岡)
- ・「食品のリスクはゼロではない」ということを、一般消費者へどう伝えていくかが課題。(大阪)
- ・安全な食品と危険な食品に関し、あえて「白黒二分法」を支持する。日本人の感情として、危険なものは危険と言ってもらいたい。(岡山)
- ・自分で考えて生活しないと、いくら科学者がしっかりと研究しても意味がない。(東京3)
- ・まだまだ消費者は食品安全に対する理解が浅いと思われる。目に見える安全性を考えていくこと、正しい情報を国民に幅広く伝えることが大事。(福岡)
- ・人間は、危ないという情報に反応しやすいので、安全性を訴える場合は、危ないという情報の2倍のポジティブ情報を流す必要がある。より一層の情報発信を委員の方々に期待。(東京1)
- ・BSE、鳥インフルエンザ、O-157などの発生時に、情報が錯綜し、困惑した。早い時期に正確な情報を知らせてほしい。(札幌、岡山、京都)
- ・風評被害との関係では、マスコミ、特にテレビへの対応、サイエンスリテラシーの向上の2つが重要な課題。(東京2)
- ・場合によっては、マスコミに協力を求めることも必要。新聞やテレビで食品安全委員会がリーダーシップをとれないものか。(東京2、岡山)
- ・BSE や食中毒など、マスコミで大きく騒がれるが、その後どうなったのか不明なことが多く、不安が残る。(札幌)
- ・HP(ホームページ)以外でも、地域における広報誌の活用なども含め、多様なメディアを活用して、だれでもわかる情報の提供を期待。(東京2、東京3、名古屋)
- ・食品安全委員会のHPのリンク先を充実してほしい。(東京3)
- ・リスク管理とリスク評価で所管は異なっているのは理解しているが、食品安全委員会に食に関する質問全般に答えてほしい。(岡山)
- ・食の安全ダイヤルのフリーダイヤル化を検討できないか。(名古屋)
- ・学校教育において、食の安全に関するカリキュラムの充実が必要。(東京1)

< BSE 関係 >

- ・日米協議を始めとして BSE 問題を巡って様々な報道がなされているが、実際にはどのような状況になっているのか。(東京1)
- ・米国からの輸入再開について、政治的に解決されたら食品安全委員会の存在意味や信頼感がなくなると感じる。食品安全委員会がはっきりとした態度をとるべき。(東京2、東京3)
- ・個人的には全頭検査はやり過ぎと思っているが、経緯がどうであれ、安心を国民に与えてきたことを踏まえると、全頭検査が必要ではないか。(東京3)
- ・科学的に見れば全頭検査は不必要かもしれないが、安心感が得られよう、全頭検査の継続を希

望する。(岡山)

- ・全頭検査については、近い将来日本で BSE の発生はなくなるだろうから、その時点でどうするかを考えたかどうか。(東京 3)
- ・全頭検査の見直し、米国牛の輸入再開を進めてほしいと思うが、国民の過半数が全頭検査をしなくても牛肉の安全は確保されると認識できるような広報活動が重要。(岡山)
- ・特定危険部位の除去などの米国の取組を知らなかった。そうした人は多いと思うので、正しい情報をわかりやすく知らせて欲しい。(岡山)
- ・米国では肉骨粉の飼料禁止についてどのようなになっているのか。(仙台)
- ・国際的整合性と言うが、その国際的ルールとは、どのような経緯で作成されているのか公開して欲しい。OIE の特定危険部位の指定の経緯に関しても疑問がある。(岡山)
- ・牛の腸の扱いはどのようなになっているのか。(東京 1)

<鳥インフルエンザ関係>

- ・委員会からの情報提供により、近所の方々に鶏肉の安全性を伝えることができ、とても役に立った。しかし、時期が多少遅かったのではないか。(岡山)
- ・委員会などからの「国民の皆様へ」のメッセージはありがたかった。これからも正しい情報を数多くの手段で知らせて欲しい。(名古屋)
- ・人に対して危険でなかったことを、もっと説明する必要があったのではないか。(東京 2、仙台)
- ・感染の疑いのある鶏を埋める映像が繰り返し放映されたが、こうした映像があらぬ心配を招いたのではないか。(東京 1)

<コイヘルペス関係>

- ・地元で「コイヘルペス陽性」との報道が一旦あった後、「実は陰性だった」ということになったことがある。不確かな段階で報道が流れるのは問題ではないか。(東京 1)
- ・コイヘルペスが食を介して感染しない科学的根拠を知りたい。(福岡)

<その他>

- ・食品安全委員会が、自ら食品健康影響評価を実施するということを聞いて期待している。モニターの意見も候補となるのか。(大阪)
- ・リステリアに関する最新情報を知りたい。(東京 3)
- ・ノロウイルスについては、主にカキによる食中毒として発生するが、人から人への感染もあるので懸念している。(札幌)
- ・欧米でエンテロバクター・サカザキという細菌が調製粉乳に入り、乳児が髄膜炎を引き起こす問題が起きているが、対応はどうなっているのか。(京都)
- ・食品安全基本法の制定や食品衛生法の大幅改正により、食の安全確保が大きく前進しつつあるという気がする。最近のアカネ色素への対応は迅速で、以前では考えられなかった。(札幌)

2) 個別テーマに関する意見等

< かび毒・自然毒等関係 >

- ・コンフリーを食してきた経験があるが、そのリスクについて知りたい。(東京1、名古屋)
- ・コンフリーの販売等の禁止については、国民に十分に伝わっていないのではないか。(福岡)
- ・自家製味噌を作っているが、いつも上ずみにかびが生えるのが心配。(東京1)
- ・地元ではヤマゴボウを生で食べる習慣があるが、問題ないか。(東京1)

< 動物用医薬品関係 >

- ・国際的整合性の名の下で、規制が緩くなるのではないかと心配しているので、食品安全委員会において信頼のおける科学的評価を期待。(東京2)
- ・ADI(一日許容摂取量)の設定において、幼児や高齢者などの個人差は考慮されているのか。(東京2)

< 添加物関係 >

- ・手作りのものの安全性、売られているものの安全性、それぞれについて疑問を持っている。添加物の良い面と悪い面のどちらをとるかがこれからのテーマだと思う。(東京3)
- ・食品事業者は利便性から添加物を使用するのだろうが、減らす方向はないのか。(東京3)
- ・新しく申請される添加物は年間どれくらいあるのか。過去に認められた添加物の見直しはどうなっているのか。(札幌)
- ・一つ一つが安全でも、数種類の添加物が組み合わさることによる複合的なリスクが懸念される。(東京3、名古屋)
- ・「ものを怖がらなさ過ぎたり、怖がりすぎるのはやさしいが、正当に怖がることはなかなかむづかしい」との寺田寅彦の指摘については非常に印象に残った。こうした考えを広く伝えることが必要ではないか。消費者ももっと自分で考えて生活しないといけないと思う。(東京3)
- ・ステビアの安全性について懸念。(東京1、東京3)
- ・AF2とサイクラミン酸ナトリウムの使用が禁止されたが、当時の議論として、その結果食中毒や糖尿病が増えるのではないかと説もあった。実際にはどうだったのか。(札幌)
- ・「無添加」などの表示は、逆に食品添加物について不必要に危険性を煽ることになり、問題ではないか。(福岡)

< 農薬関係 >

- ・農薬を使うことによるリスクと同時に、使わないことによるリスクも伝え、バランスの取れた科学的議論も重要。(東京2)
- ・農薬はイメージが悪いが、農薬を使用しないと栽培の手間やコストの面、また、消費者も虫食い商品を買わないなどの問題も生じる。これらのバランスをどう考えるべきか。(仙台)
- ・極端に摂取量が多い場合、ADIを超えてしまうケースも出てくるのではないかと。基準値を下げることも考えた方がよいのではないかと。(福岡)
- ・以前に使用されていて、現在使用されていない農薬があるが、こういった理由からか。(京都)
- ・牧草に使用された農薬によって家畜が受ける影響は問題ないのか。(福岡)
- ・複数の農薬が散布された農産物や、いろいろな化学物質や添加物が含まれている食品を食べた時の複合的なリスクをどのように考えているのか。(東京2、京都)
- ・農薬の使用に関し、生産者への教育・指導がきちんとなされていないのではないかと。(東京2)

- ・農薬を使用しながら無農薬と表示して出荷している農家があり、きちんと規制すべき。(仙台)
- ・特に輸入食品における無登録農薬の使用や使用基準の遵守について懸念。検疫体制はどうなっているのか。(東京2、京都)
- ・中国野菜の残留問題については、中国に対してどのような対応がとられたのか。(東京2)
- ・外国で許可されている農薬で、日本で無許可なものはあるのか。(京都)

<汚染物質関係>

- ・メチル水銀は主に大型魚に蓄積するが、他国に比べて日本は摂取目安が緩いのではないのか。(札幌)
- ・マグロ中の水銀について、妊産婦への注意喚起は必要ないのか。(仙台)
- ・メチル水銀は一旦体内に入ってしまうと、蓄積する一方で減少していくことはないのか。また解毒の方法はないのか。(仙台)
- ・メチル水銀の海中濃度が高い水域というものを特定できるのか。(仙台)
- ・畜産物では、と畜段階で1頭ごとの検査がなされているが、水産物についてはどのような検査がなされているのか。(仙台)

<遺伝子組換え食品等関係>

- ・遺伝子組換え食品については、生態系に影響がないのか心配。また遺伝子の組換えを繰り返すことにより、違った影響が出てくるかもしれない。食べてもこの先大丈夫かと心配。(大阪)
- ・遺伝子組換えが作物の収量を上げるために必要なのはまだ理解できるが、健康食品への利用などに向けた研究開発はどこまで意味があるのか疑問。(大阪)
- ・リスクはゼロではないのだから、試験分析にここまでお金を払って、安全性の確保を図る必要があるのか。費用対効果をどのように考えているのか。(大阪)
- ・国産大豆の生産量は少ないはずなのに、「遺伝子組換えの大豆は使用されていません」、「国産大豆使用」との表示がある。本当に表示は正しいのか。(京都)

<新開発食品等関係>

- ・健康食品やダイエット食品に関するマスコミ等の情報を鵜呑みにして、情報に流されてしまっている人が多いことを懸念。どんな食品にもリスクがあり、正しい情報を伝えていく上でマスコミ規制はできないものか。(札幌、名古屋)
- ・正しい科学的情報をHP等で情報提供していくことが必要。(東京3)
- ・類似の特定保健用食品が立て続けに認可されている。きちんと審査されているのか不安。(名古屋)
- ・特定保健用食品「エコナマヨネーズタイプ」については、発がん性を懸念する声があったが、問題ないのか。(東京1)
- ・新しく開発された食品が特定保健用食品の評価を受けずに市場に出回ることあるのか。また、市場に出て健康被害が出た場合はどうなるか。(名古屋)
- ・特定保健用食品の認可前に申請中と表示して販売できるのか。(名古屋)
- ・特定保健用食品の申請時に企業から提出される資料の内容に誤りがあった場合、罰則はあるのか。(名古屋)
- ・特定保健用食品と医薬品の線引きはどこか。(名古屋)
- ・特定保健用食品の有効性については、どのように判断がなされるのか。(名古屋)

アンケート調査結果

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
開催地	東京1	東京2	東京3	福岡	仙台	札幌	大阪	岡山	京都	名古屋	
開催日	H16.6.11	H16.6.18	H16.6.25	H16.7.9	H16.7.13	H16.7.14	H16.7.20	H16.7.21	H16.7.27	H16.7.28	-
参加者 対象地域	東京都、山梨県、長野県	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県	新潟県、千葉県、神奈川県	九州8県	東北6県	北海道	大阪府、兵庫県、和歌山県	中国5県、四国4県	北陸3県、滋賀県、京都府、奈良県	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	-
参加者数	44人	38人	42人	55人	33人	15人	39人	44人	32人	40人	382人

出席率：81.6%

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	合計
回収数	44	38	40	55	32	15	39	44	32	40	379
回収率	100.0%	100.0%	95.2%	100.0%	97.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%

問1 参加者の構成

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
食品関係業務経験者	47.7%	50.0%	30.0%	30.9%	40.6%	33.3%	23.1%	31.8%	37.5%	22.5%	34.6%
食品関係研究職経験者	9.1%	2.6%	7.5%	14.5%	6.3%	13.3%	17.9%	9.1%	6.3%	12.5%	10.0%
医療・教育職経験者	4.5%	5.3%	12.5%	10.9%	6.3%	13.3%	17.9%	22.7%	15.6%	10.0%	11.9%
その他消費者一般	38.6%	39.5%	50.0%	41.8%	43.8%	40.0%	41.0%	34.1%	37.5%	55.0%	42.2%
無回答	0.0%	2.6%	0.0%	1.8%	3.1%	0.0%	0.0%	2.3%	3.1%	0.0%	1.3%

問2 モニター継続区分(第2回目以降アンケートの質問項目として追加)

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
継続モニター	-	31.6%	35.0%	34.5%	40.6%	26.7%	41.0%	36.4%	25.0%	40.0%	35.2%
新規モニター	-	68.4%	65.0%	65.5%	59.4%	73.3%	59.0%	63.6%	75.0%	60.0%	64.8%

問3 満足度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
満足	20.5%	23.7%	15.0%	18.2%	28.1%	33.3%	25.6%	18.2%	25.0%	15.0%	21.1%
だいたい満足	56.8%	42.1%	55.0%	58.2%	50.0%	53.3%	64.1%	59.1%	59.4%	65.0%	56.7%
どちらでもない	13.6%	10.5%	15.0%	10.9%	12.5%	0.0%	5.1%	9.1%	9.4%	15.0%	10.8%
やや不満	2.3%	5.3%	2.5%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	3.1%	2.5%	3.2%
不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.8%	18.4%	12.5%	5.5%	9.4%	13.3%	5.1%	9.1%	3.1%	2.5%	8.2%

【講演「リスク分析の枠組と食品安全委員会の取組について」について】

問4 - 1 理解度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
理解できた	50.0%	36.8%	32.5%	29.1%	40.6%	53.3%	41.0%	47.7%	37.5%	30.0%	38.8%
だいたい理解できた	50.0%	60.5%	60.0%	65.5%	59.4%	40.0%	59.0%	47.7%	62.5%	70.0%	58.6%
あまり理解できなかった	0.0%	2.6%	7.5%	5.5%	0.0%	6.7%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	2.6%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問4 - 2 参考度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
非常に参考になった	29.5%	28.9%	35.0%	43.6%	40.6%	46.7%	41.0%	47.7%	34.4%	27.5%	37.2%
ある程度参考になった	61.4%	65.8%	65.0%	49.1%	53.1%	53.3%	59.0%	50.0%	65.6%	70.0%	59.1%
あまり参考にならなかつ	6.8%	5.3%	0.0%	7.3%	6.3%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	2.5%	3.4%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%

問5 - 1 内容がわかりにくかった点(問4 - 1で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ)

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
説明に専門用語が多かつ			1人	2人		1人		1人			5人
資料がわかりにくかった				1人							1人
聞き取りにくかった											
適切な説明時間が確保され		1人						1人			2人
その他								1人			1人
無回答			2人								2人

問5 - 2 参考にならなかった点(問3 - 2で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ)

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
すでに知っている内容がほと	2人	2人		2人	2人			1人		1人	10人
その他		1人		1人						1人	3人
無回答	1人			1人							2人

【講演「個別テーマについてのリスク評価の考え方と実際について」について】

問6 - 1 理解度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
個別テーマ	かび毒・ 自然毒等	動物用医薬 品	添加物	農薬	汚染物質	添加物	遺伝子組換 え食品等	肥料・飼料 等	農薬	新開発食品	
理解できた	40.9%	26.3%	25.0%	18.2%	28.1%	20.0%	30.8%	52.3%	25.0%	27.5%	30.1%
だいたい理解できた	56.8%	52.6%	55.0%	63.6%	68.8%	66.7%	59.0%	40.9%	65.6%	67.5%	58.8%
あまり理解できなかった	2.3%	13.2%	20.0%	16.4%	3.1%	13.3%	7.7%	2.3%	9.4%	5.0%	9.2%
理解できなかった	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答	0.0%	5.3%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	2.6%	4.5%	0.0%	0.0%	1.6%

問6 - 2 参考度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (福岡)	第5回 (仙台)	第6回 (札幌)	第7回 (大阪)	第8回 (岡山)	第9回 (京都)	第10回 (名古屋)	全体
非常に参考になった	38.6%	34.2%	27.5%	27.3%	31.3%	33.3%	48.7%	54.5%	31.3%	27.5%	35.6%
ある程度参考になった	56.8%	52.6%	65.0%	60.0%	65.6%	60.0%	43.6%	34.1%	62.5%	72.5%	56.7%
あまり参考にならなかつ	2.3%	7.9%	7.5%	10.9%	3.1%	0.0%	5.1%	4.5%	6.3%	0.0%	5.3%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.3%	5.3%	0.0%	1.8%	0.0%	6.7%	2.6%	6.8%	0.0%	0.0%	2.4%

問7-1 内容がわかりにくかった点（問6-1で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ）

	第1回 （東京1）	第2回 （東京2）	第3回 （東京3）	第4回 （福岡）	第5回 （仙台）	第6回 （札幌）	第7回 （大阪）	第8回 （岡山）	第9回 （京都）	第10回 （名古屋）	全体
説明に専門用語が多かった		5人	6人	5人			1人		2人	2人	21人
資料がわかりにくかった		1人	1人	2人	1人	2人	1人		2人		10人
聞き取りにくかった				2人							2人
適切な説明時間が確保されていなかった		2人	1人	5人					1人		9人
その他		1人	1人					1人			3人
無回答	1人						1人				2人

問7-2 参考にならなかった点（問6-2で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ）

	第1回 （東京1）	第2回 （東京2）	第3回 （東京3）	第4回 （福岡）	第5回 （仙台）	第6回 （札幌）	第7回 （大阪）	第8回 （岡山）	第9回 （京都）	第10回 （名古屋）	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから					1人		1人		1人		3人
その他	1	3人	3人	5人			1人	1人	2人		16人
無回答				1人				1人	1人		3人

【意見交換について】

問8 意見交換に充てられた時間

	第1回 （東京1）	第2回 （東京2）	第3回 （東京3）	第4回 （福岡）	第5回 （仙台）	第6回 （札幌）	第7回 （大阪）	第8回 （岡山）	第9回 （京都）	第10回 （名古屋）	全体
もっと短くてもよかった	2.3%	0.0%	5.0%	1.8%	6.3%	0.0%	2.6%	4.5%	6.3%	5.0%	3.4%
適当であった	56.8%	47.4%	52.5%	41.8%	65.6%	73.3%	46.2%	38.6%	62.5%	50.0%	51.2%
もっと時間が欲しかった	29.5%	42.1%	27.5%	49.1%	25.0%	13.3%	43.6%	38.6%	21.9%	37.5%	35.1%
無回答	11.4%	10.5%	15.0%	7.3%	3.1%	13.3%	7.7%	18.2%	9.4%	7.5%	10.3%

問9 今後のモニター会議で取り上げてほしいテーマ

	第1回 （東京1）	第2回 （東京2）	第3回 （東京3）	第4回 （福岡）	第5回 （仙台）	第6回 （札幌）	第7回 （大阪）	第8回 （岡山）	第9回 （京都）	第10回 （名古屋）	全体
添加物	9.1%	18.4%	7.5%	14.5%	12.5%	6.7%	30.8%	20.5%	18.8%	20.0%	16.4%
農薬	13.6%	2.6%	12.5%	7.3%	9.4%	6.7%	10.3%	9.1%	0.0%	0.0%	7.4%
動物医薬品	2.3%	0.0%	2.5%	0.0%	6.3%	6.7%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	1.6%
器具・容器包装	6.8%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	6.7%	7.7%	4.5%	9.4%	2.5%	3.7%
化学物質	0.0%	5.3%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.4%	2.5%	2.1%
汚染物質	11.4%	2.6%	7.5%	5.5%	6.3%	0.0%	2.6%	0.0%	3.1%	17.5%	6.1%
微生物・ウイルス	6.8%	10.5%	10.0%	3.6%	12.5%	20.0%	12.8%	4.5%	6.3%	2.5%	7.9%
プリオン	0.0%	2.6%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	5.1%	4.5%	0.0%	5.0%	2.4%
かび毒・自然毒等	0.0%	5.3%	2.5%	3.6%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	1.8%
遺伝子組換え食品等	6.8%	26.3%	20.0%	18.2%	15.6%	33.3%	2.6%	29.5%	25.0%	25.0%	19.3%
新開発食品	22.7%	13.2%	20.0%	16.4%	18.8%	6.7%	17.9%	9.1%	12.5%	7.5%	15.0%
肥料・飼料等	2.3%	0.0%	0.0%	1.8%	6.3%	6.7%	2.6%	2.3%	3.1%	2.5%	2.4%
無回答	18.2%	13.2%	12.5%	23.6%	9.4%	6.7%	7.7%	15.9%	6.3%	15.0%	14.0%

問 10 会議全体についての感想や御意見など

会議の運営に関するコメント

【会議の進行について】

昨年度より2回目のモニター会議出席者から「内容が濃いものになり、とてもよかった」などの指摘があったほか、全般的に「会議の進め方もよく、充実していた」などの指摘がみられた。

一方、講演者、説明者等の専門用語、カタカナ語の多用などについての問題指摘や、モニターの質問内容の精査も課題である旨の意見もあった。

そのほか、「出席された専門家とモニターとの間にレベルの差を感じた」(札幌)「専門家と消費者の距離は、専門家の方々が近づかなければ会議の意味がなく、講演会になってしまう」(岡山)「専門家からの説明はとても詳しくてよかったが、時間が限られており十分理解できたと言えないのが残念」(東京2)といった意見もあった。

【会議形式】

意見交換のあり方として、「より充実したモニター同士での意見交換を求める」(東京2、大阪)という意見があった。具体的に、分科会形式などで小規模グループでの討議を行ったかどうか、課題の選定、各モニターの意見を事前に集め、モニターからの発表の場を設けたらどうかなどの提案もあった。

一方、事前の準備もないまま、モニター同士の意見交換をその場で求められても難しいとの指摘もあった。

また、「同一県のモニターの交流の場をとってほしい」(東京2)等の要望もあった。

【意見交換と会議時間について】

意見交換、質疑応答の内容に関しては、「他地域や、異なる年代層のモニターとの貴重な意見交換は有意義だった」などの意見や、充実した意見交換が活発に行われたなどの指摘があった。

一方、「テーマが偏ってしまったので、もっと多方面からの意見が出るとよい」との指摘もあった。

また、時間配分に関しては、「意見交換、質疑応答の時間は適当だった」という意見があった反面、「意見交換の時間が短いのもっと時間がほしかった」等の指摘もあった。会議時間の延長を求める声と併せて、「資料は前もって読んでおいて、ポイントだけ説明して欲しい」(東京2)「事前質問を受けるようにしたらよいのではないか」(大阪)等の時間の節約を求める提案もあった。さらに、「会議は1年に1回ではなく、数回の開催を希望する」(岡山)等の要望もあった。

説明内容等に対する感想・意見等(会議の運営以外の主なコメント)

【東京1】

- ・ 「かび毒・自然毒等についてのリスク評価の考え方と実際」のような具体的な話を今後も行ってもらいたい。本当に勉強になった。
- ・ 自然毒については知識がなく、今回は考えさせられることが多かった。
- ・ かび毒については新しい情報が得られず、期待外れであったが、植物毒については何も知らなかったなので、知識として参考となった。

- ・ 身近な話題であったので大変分かりやすく、勉強になった。
- ・ 日頃あまり知ることのない分野だったので、大変興味深く聞いた。

【東京 2】

- ・ 食品安全委員会の方向性がある程度理解できたので、参加した意味があったと思う。
- ・ リスク分析の話と意見交換の内容等が大変勉強になった。
- ・ 説明は分かりやすく興味深かった。鳥インフルエンザなどの対応を見て、この食品安全委員会が設立されていて本当に良かったと思う。

【東京 3】

- ・ リスク評価の説明が参考になった。食肉の輸入をめぐる問題を踏まえて、BSE についてモニター間で討論してみたらどうか。
- ・ 先生方の専門的な話を聞き、新たな知識を得ることができ、大変勉強になった。
- ・ 専門的な説明も聞けたし、モニターの皆さんの意見も聞けて、有意義な会議だったと思う。BSE に対しての検査内容が理解できた。
- ・ 添加物のリスク評価の「閾値」の話はとてもおもしろかった。
- ・ 報道で「違法の添加物を使用しておりまして申し訳ありませんでした」という記事を目にする。その際、どのランクの危険度かを示してほしいと思った。

【福岡】

- ・ 委員会の趣旨が少し理解できたと思う。
- ・ モニター会議の出席が 2 度目で、リスク分析の話などについてよく理解できるようになった。今後は、食の安全性をもっと考えねばと思った。
- ・ もっと広く一般の方に同じ様な話を聞いてもらう場があれば良いと思う。
- ・ 農薬については、知識不足のため、ただ漠然と不安を感じていたが、今日の講演は勉強になった。もう少しお話を聞きたいと思った。
- ・ 自分の専門外の先生の説明が詳しくて分かりやすかった。

【仙台】

- ・ リスク評価については、正確なリスクコミュニケーションを図るべきかと思う。
- ・ 汚染物質についての話は、興味深く具体的に分かりやすく勉強になった。
- ・ 今後、他の専門調査会等の話も聞きたいと思った。
- ・ これまでの知識にプラスできる内容であった。ただし、結論として、結局は自分で判断して常識的に食べるしかないとなると、一般的には分かりにくいのではないかと思った。
- ・ 今回のテーマは、普段から食べているものなので、非常に興味深いものであった。
- ・ 講演の内容は、それぞれコンパクトにまとまっていて分かりやすかった。

【札幌】

- ・ 行政と消費者が科学的に根拠のある情報を共有していける体制が、より充実したものになればと思った。
- ・ 添加物の DNA、発がん性の検査方法から、結果のとらえ方、考え方がわかった。出回っている商品は、一応安心して食べられることを感じた。

【大阪】

- ・ 「リスク分析の枠組と食品安全委員会の取組」は、もう少し時間を取って話してほしい。

った。ゼロリスクはないというのは理解しているが、項目ごとにそれぞれどれくらいリスクがあるのか、図表があると分かりやすかったと思う。

- ・ 食品安全委員会の仕事について、もっと詳しく教えてほしかった。
- ・ 確かにコストベネフィットや安全規制の国際的整合性も大事ではあるのだが、リスク評価や国民の「安心」が揺らぐことのないようお願いする。
- ・ 遺伝子組換え食品について、漠然と不安を抱えている消費者が大変多いと思う。今日得た知識を少しずつでも知人に伝え、組換え食品だから危険というわけではないということを知ってもらいたいと思った。

【岡山】

- ・ 平成 15 年度の会議に引き続いて説明を受けたので、リスクコミュニケーションについてさらに理解が深まり、食品安全委員会についてよく分かった。
- ・ とても分かりやすい内容だった。科学者は情報を収集し、判断までしなければならないと思う。
- ・ 意見交換の内容が B S E と鳥インフルエンザに集中し、皆さんの関心の高さが伺えた。科学的な目と情動的な面からの意見の違いが出てくるのは仕方がないことだと思う。安心を得るには正しい情報が重要で、それを誰でも得られる方法をとっていただきたい。

【京都】

- ・ 第一部の議題が、今後のモニター活動を行う上で大変参考になった。
- ・ 試験法の解説については大変参考になったが、農薬のリスクについては残留農薬の問題など、現在話題となっているリアルな問題についてももっと知りたかった。
- ・ 農薬のリスクについて、各試験（動物実験等）を踏まえて決定されていることはよくわかったが、いくら安全性が確認されてもそれは 100%ではないのではないかと。
- ・ 農薬は添加物より情報が少なく、公開されてもその内容があまり良くわからなかったもので、今回のお話は大変勉強になった。
- ・ 専門用語が多く難しい点もあったが、農薬問題で多くの事柄を学ばせてもらった。
- ・ 輸入食品についてはどんな農薬が使われているのか心配になった。生産者を信じるしかないと思った。

【名古屋】

- ・ 2 年目に入るが、今回のリスク評価の話は分かりやすかった。
- ・ 新開発食品の具体例を挙げての説明は大変参考になった。
- ・ 特定保健用食品のしくみを知り、ますます中小企業、ローカルメーカーにとってハードルの高い制度であることを痛感した。
- ・ 保健機能食品制度がこれほどしっかりとした制度で、表示できる言葉にも制限があることが分かった。食品安全委員会の仕事は、大変な労力を必要とされていて、責任が重い組織だと理解した。